

東部2地区再編案A意見一覧

資料2-12

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
東部2地区	第三小学校	<p>①学校の規模は適正であると考えます。</p> <p>②1学級の児童・生徒数、1学年の学級数、学校全体の学級数等についてはおおむね適正規模の範疇に収まっており問題はないと考える。</p> <p>③少人数クラスができ、きめ細かな対応ができる</p> <p>④クラス替えができるので友達が固定しない</p> <p>⑤第三小学校と今井小学校の再編で、今井小学校の編入対応は問題ないと思われます。</p> <p>⑥第三小学校の規模拡大対策の今寺4丁目の新町小学校への転入は問題ないと思われますが、当該地域の方々の理解を深める必要があると思われます。</p> <p>⑦減少傾向にある児童数に対し、望ましい定数を保つことが出来る。また、学区の編成により長期的な児童数の推移を見ても一定年数は望ましい児童数が保てる。</p>	<p>③男女比が均等にならないとクラス運営が難しいのでは？</p> <p>④体育など、できる授業に限られるのでは？</p> <p>⑦向こう10年程度は児童数が多く、学校側の対応が困難になることが懸念される。また、支会区域が異なる学区が統合されるため地域社会間での情報の共有化や学校と家庭及び地域のコミュニケーションが課題になるのではないか。今寺4丁目付近の児童が再編のタイミングで別の学校になることから、兄妹で別の学区となり保護者の負担が増える可能性がある。再編の際は上記通り支会も異なる為何かしらの策が必要と考えられる。新町に関しては学区内にいくつか工業団地が含まれるため、市況により人口の増減が非常に読み難く現時点での児童数が推移通り進むかが不明。</p>		<p>①新しい学校の位置は3小・中と新町小・中は共に隣接しているため、再編しやすく小学生の通学で負担が増す地域もありますが、やむを得ないものと考えます。</p> <p>②現状でも青梅市立第二小学校では通学時間に30分を超過するケースがあると聞いており無理な設定ではない。公共交通機関はあるが、今後スクールバスの運用も可能になれば通学の負担も減少する。</p> <p>⑤第三小学校と今井小学校の再編で、今井小学校地区での通学時間は許容範囲と思われますが、バス利用での児童の負担軽減の配慮、検討が必要と思います。</p>	<p>②今井地区と今寺地区に居住する児童、生徒にとって再編後の学校までの距離は各段に遠くなる。今井1丁目から第三小学校まで徒歩約40分、今寺4丁目から新町小学校まで徒歩約20分。親御さんたちに登校距離に対する漠然とした不安が生じる可能性はある。</p> <p>③位置が極端に西になり、東から来る子に負担が大きい</p> <p>③小学校低学年は慣れるまで保護者が付き添う必要がある</p> <p>③自転車登校が増え危ない</p> <p>③バスの本数、交通費負担が心配</p> <p>④自転車等の購入費用の発生</p> <p>④新町の移動については安全対策が必要になる</p> <p>⑤通学時間が延長することにより、該当地域での少人数通学による防犯対策の徹底が課題となります。</p> <p>⑦今井1丁目付近から現第三小学校までの通学に関し懸念が残る。公共交通機関のバスも近年では本数も減っている為スクールバス等を検討する必要あり、低学年児童の通学に負担増。</p>	<p>②小学校や中学校は地域のコミュニティにとってシンボリックな存在であり、防災拠点になっていたり、地域の祭りの会場になっていたり、廃品回収の拠点になっていることも多い。こうしたシンボリックな存在が喪失することは地域の活性化の障害になりやすい。全国の自治体ではこうした学校統合に伴う廃校校舎を地域のコミュニティにとって新たなシンボルになるように再生する試みが行われている。</p> <p>⑥学区は現状を基本に設定しているものの、再編後の学校規模に応じて学区の調整を行うとしています。</p> <p>そういうことであれば、初めから現状の学区にとられず、生徒の通いやすさ（特に距離）を考慮し、就学区域を設定し直しても良いのではと考えます。生徒は距離の近い学校に通いたいと思うのではないのでしょうか。学校規模に差ができるとしても、大きいものでなければ許容しても良いと考えます。</p>	<p>②施設一体型の場合、同じ施設内で年代が離れた児童や生徒が共に学ぶ環境になる。思春期を迎える中学生世代が小学1・2年生を指導する、面倒を見る機会が増えるはずである。中学生世代が小学校低学年世代に接する機会は社会の仕組みや世代間の交流について考えるよい機会になる。こうした経験することはこれまでの6年3年3年で区切った教育制度内では経験する機会が皆無に近かったはずである。小学校高学年世代の立場からすれば、これから自分たちが進むべき道の生きた指標になる。デジタル化していく社会の中で実際の生活ぶりを日常的に見る機会は大切になる。</p> <p>③小学校高学年が自立して学校での役割ができる</p> <p>③中学進学時、環境が変わることでの気持ちの切り替えができる</p> <p>④一貫した教育計画が立てられる</p> <p>④設備費の節減が図れる</p> <p>⑤施設隣接型小中一貫校案で、既存の施設改修での利用が可能になることは評価できます。</p> <p>⑦施設隣接型の場合、それぞれ学校側の規模が変わらない為これまでの運用方法が適応できず新校舎設立後も、特に問題なく運営が可能である。小学生・中学生による体格差を問題とする必要が特になく（設備や児童・生徒の接触など）。</p>	<p>②同じ施設内で9年間学ぶことは全く懸念がないわけではない。小学校で6年間学び、中学校は別の環境で3年間学ぶことは人生に区切りをつけるリフレッシュ効果があった。</p> <p>④マンネリ化ができやすい</p> <p>⑤改修後の維持管理で、施設隣接型小中一貫校運用のため二重の管理費用が発生することが懸念されます。</p> <p>⑦隣接とは言え、現状も密にやり取りがあるわけではない為、別々の運営方法であり小学校と中学校では別の教育機関という認識になる。</p>	<p>①再編案では、現状の校舎のままだと、施設隣接型となるが、施設老朽化による建て替えも考慮して、建て替え費用やその後のランニングコスト等を精査して、運営のしやすさを当事者（先生や教育委員会）の意見を集約して東部2地区再編案AかBを選択してほしいと思う。</p>
	新町小学校	<p>①行事の時ある程度の児童数がないと盛り上がらないので良いと思います。</p> <p>③東部2地区再編案Bと比較して、児童・生徒数の規模が適正と考える。この規模であれば、現行の小学校・中学校の規模で対応可能である。</p> <p>④集団生活から得られるものを考えると、統合し望ましい学校規模を維持することは必要と考えます。</p> <p>⑤適正数が必ずしも案の通りで合っているかは別として全体としては良いと思う。</p> <p>⑥小学校1学級25名位、中学校1学級30名弱になるが、子どもにとっては学習面で目が行き届き良いと思う。先生の負担も少しは軽くなるかもしれない。</p>	<p>⑥小中一貫であると、学級数や規模が大きい印象がある。小学1年生と中学生では、体格差があり、心配な部分もある。</p>	<p>②東部2地区再編案AもBも変わらない</p>	<p>①新町中との隣接なので良いと思う。</p>	<p>①藤橋小の児童は特に1年生は通学が大変。</p> <p>③今井小・藤橋小いずれも、児童の通学負担が大きい。バス通学の支援を青梅市が行う必要があると考える。</p> <p>④今井地区の児童の通勤が気になります。建て替えるのであれば、今の第3小学校の場所以外で中間地点くらい候補地はないでしょうか？ 徒歩40分、徒歩+バスも少々心配ではあります。</p> <p>④学童について、小学校の近くにある学童（第3、大門、新町）を利用することになると思いますが、今井地区の児童の保護者様のお迎えの負担も気になります。（今井と藤橋の学童はそのままその場所に残すのか、他へ移設するのか、無くすか）</p> <p>⑤今井小学区1丁目の三小への通学手段（バスが公共なのか市のスクールバスなのか）</p> <p>⑥三小・三中学区が広い。今井の徒歩40分3kmは大変だろうと思う。路線バスもその頃に運行しているだろうか。今でも本数は少ない。学校の位置を学区の中心に設置する方法はどうか。</p>	<p>②東部2地区再編案AもBも変わらない</p>	<p>①ある程度の児童数が見込めるので充実した教育が可能</p> <p>⑤通う経路が変わらない</p> <p>⑥建物の維持・管理費は多少軽減できると思う。異年齢との交流があれば良い面もあるかもしれない。</p>	<p>②中学生の不登校などが多い状況では、同一施設だと悪影響が懸念される。</p> <p>③小中一貫にするメリットが教育委員会の説明では伺えない。学力向上など子どもや保護者にとってのメリットがない限り不要と考える。</p> <p>⑤学区統合だけで今と変わらない</p> <p>⑥小中学校、各4学年4クラスを想定すると、校庭や体育館の使用が混乱するので、広くする必要があるかと思う。小学校低学年のことを考えると、成長・発達の差が激しい。</p> <p>⑥小・中学校の間に道路があるので、難しいかもしれないが、屋内通路（空中の通路）を設置し、行き来できれば良いと思う。</p>	

	学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
今井小学校	<p>②中学校の生徒数、学級数は適切な範囲に収まっている。</p> <p>⑤昔は1クラス35名位でしたが、20名ということで目の行き届いた教育ができると思います。</p> <p>⑥児童、生徒数、学級数については活気ある活動が期待される。</p> <p>⑦学年の人数、クラス増になると、スポーツ等でクラス対抗など活発になるのでは。</p>	<p>②小学校の児童数が、三小も新小も多すぎる。望ましい学校規模のMAXが小学校24学級であるのに対し、三小も新小も24学級の学校規模だと、今後区画整理などがあって人口が増加したときにキャパオーバーになってしまう可能性もある。国の示す望ましい学校規模が12～24学級なら、間を取って18学級を目指す。児童数、生徒数が多いと目が行き届かなくなり、学級崩壊や学校崩壊なども懸念される。子ども一人一人に教育が行き届くようにするためには、東部2地区全体で小学校は3校がベストといえる。</p> <p>⑥低学年については細やかな指導が行き届くのが心配される。</p> <p>⑦一部地域の再編では、施設等の変化があり難しい。</p>		<p>⑤路線バスがある</p> <p>⑥従来の中学校区中心となるので、地域には馴染みやすい。</p>	<p>②まずは豊岡街道の整備をしてほしい。三中生の自転車通学のマナー悪すぎ。朝はスクールゾーンで車両進入禁止なのに無視して通る車が多すぎ。そこを多くの小学生が徒歩で通学するか、ぞっとする。今井1丁目からはバス通学となっているが、朝のバスの本数が増えるということで、事故が起きてでも不思議ではない。また学区が広くなるということは、学校行事や毎日の送迎を車で利用する保護者も多くなるということなので、施設には駐車場の確保も必要。現在も学校では「車の乗り入れはご遠慮ください」としているが、学童はほとんどが車でお迎え。学校の駐車場が使えないと近隣の市民センターや店舗に迷惑がかかることが懸念される。やはり学校は子どもにとっても保護者にとっても徒歩圏内が一番ベストといえる。</p> <p>⑤3小・3中の道路が狭くて危険</p> <p>⑥従来の中学校区中心となり、統合される小学校区は広範囲になり、通学の負担が増す。</p> <p>⑦低学年の通学が大変(引率等)</p>		<p>②施設隣接型では小学校と中学校が別々に建てられるため、小学生に合った用具や特別教室、中学生に合った施設が使える。コロナ禍の時のように万が一学校が休校になるときも、切り離して休校処置ができる。</p> <p>⑤見慣れた学校なので、緊張することなく小学生から中学生になれると思う。</p> <p>⑥施設分離型では、小学生らしい教室のあり方や中学生らしい設備の提供が可能。</p>	<p>⑤中学生が怖いと思う小学生がいるかもしれない。</p> <p>⑥一貫校としての統一性を施設として示し難い。</p> <p>⑦低学年の通学が大変(引率等)</p>	
藤橋小学校	<p>①小人数の学校では再編した際に多くの子供たちと学ぶことができると思うので、メリットになると考えます。</p> <p>②1クラス35人学級</p> <p>③少子高齢化を見通した場合の学級数等は妥当な数だと思われる。</p> <p>④先生たちの目が届く</p>	<p>②現在の1小・4小の区域が6地区と7地区に編入されること</p>		<p>③藤橋小学区より考慮しても概ね適正配置と思われる、通学負担も他学区と比べ妥当かと思われる</p> <p>④歩く運動習慣が身につく</p>	<p>①距離が遠くなると、小学生の負担はあると思います。また、大人とは違い、小学生にとって学区を超える距離は、慣れている地域、育った地域から離れる感覚があると思います。地域性と考えると少しデメリットを感じます。</p> <p>②6地区は東青梅から御嶽までの約10kmになるので、中心をどこに配置するのか、通学距離に課題がある。</p> <p>③幹線道路の通学も発生するのが懸念である。</p> <p>④距離が遠くなると交通事故が起きないか心配、天候で通学が難しい。夏に炎天下の中、低学年は歩くのがきつい。</p>		<p>①小中一貫教育については、連続した学びを得られるので、メリットは大きいと考えます。中学校になった際の環境や友人の変化に戸惑うことも少なくなると思うので良いと思います。施設分離型については、メリットがあまりないように感じます。同じ建物の中で過ごし共有することが一番のメリットと考えます。</p> <p>④先生たちの連携がとれる、9年間見通した教育目標を共有できる。</p>	<p>③施設一体型の経験がなく、判然としませんが、施設の使用・維持には一定の利があるように思われる。但し、小学低学年と中学生との交流や教師間の交流については、未知数な点も現状ではないか？</p>	
第三中学校	<p>①建物の老朽化、経営面も考えても良いと思う</p> <p>②学校の規模は適正であると考えます</p> <p>④再編後、適正規模を確保できる</p> <p>⑤一学級当たりの人数は適切かと思いました。やはり今井小、藤橋小学区の生徒数の適正化は進めるべきと考えます。</p>	<p>③3小が今井小を受け入れられる教室があるのかどうか。新町小・藤橋小も同じことがいえる。先生を増員しないと無理な気がします。</p> <p>⑤適正化の時期で生徒の心境が不安定になることも考えられるため、該当エリアで生徒が選べる時期という期間を設けてはどうか？と思いました。</p>	<p>⑥将来の人口減少社会の予測に基づいて対策は大切と考えます。</p>	<p>①建物の老朽化、経営面も考えても良いと思う。</p> <p>②新しい学校の位置は3小・中と新町小・中は共に隣接していて、再編しやすく小学生の通学で負担が増す地域もあります。が、やむを得ないものと考えます。</p>	<p>③現3小・新町なら2校共に建て替えが必要です。通学も、今井1・2丁目から低学年の生徒が歩くのはリスクが高い。公共バスも一般の方がいるので大混雑してしまう。親が送迎して大渋滞が多発して近隣からクレームが入りそう。スクールバス等はコスト大になるので困難だと思う。</p> <p>④今井1丁目から第三小学校の通学は児童・生徒に対して負担が多い</p> <p>⑤両方の案に言えることですが、今井小学区で特に入間市よりの生徒や、武蔵野台病院の辺りに住む生徒が三小に通う場合に、公共交通との関係や、道幅が狭いことによる事故が考えられます。</p> <p>バス停の見直し、公共交通の路</p>	<p>⑥児童・生徒の通学の負担や安全面に配慮して検討していただければと思います。</p>	<p>①建物の老朽化、経営面も考えても良いと思う。</p> <p>⑤学校が一貫した教育ができるのは素晴らしいと思います。</p>	<p>③一貫校にするには学校を新しく作らないと不可能だと思う。それだけの資金が青梅市にあるとは思いません。(小中で使用する教材・設備が違うため)</p> <p>④小・中の教育文化、運営に違いが生じる。施設整備・維持管理の課題が生じる。</p> <p>⑤学校が落ち着かなくなってしまった時に、中学校の落ち着きのなさが、小学校に影響するのは課題だと思います。</p> <p>⑤学校の先生の教員資格の問題はないんですか？</p>	<p>②再編案では、現状の校舎のままで、施設隣接型となるが、施設老朽化による建て替えも考慮して、建て替え費用やその後のランニングコスト等を精査して、運営のしやすさを当事者(先生や教育委員会)の意見から集約して東部2地区再編案AかBを選択してほしいと思う。</p> <p>⑥東部2地区の一体型と隣接型のどちらかの案でも、施設一体感が保たれる事が大切だと思います。</p>

	学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
					線の変更、本数の見直しなどを検討していただく必要があると思います。				
新町中学校	<p>①行事の時、ある程度の児童数がないと盛り上がらないので良いと思います。</p> <p>⑥適正規模を維持できる、施設が隣接していることで、こまめな人的交流が可能になる。</p> <p>⑦規模適正化実現までの期間でそれぞれの学校の新設時期がずれているため、予算組みを余裕を持ってできるのではないかと。学校再編計画に合わせ、引っ越しを検討する猶予がある。</p>	<p>⑥施設に重複がある場合、児童・生徒数の割には施設の費用がかかる。</p> <p>⑦規模適正化実現までの期間が長くかかることで、それまでに人口分布の実状が変化してしまう可能性もある。</p>	<p>④手前の方の学区を奥にするのには親も子も大変だと思う。全体再編イメージBの6→8(東から西?) (西から東?) に来るとかの方が親的には楽です。</p>	<p>①新町中との隣接なので良いと思う。</p> <p>⑦建築期間中に廃校予定校の校舎を仮校舎として利用しやすい。(三小建築中→三小・今井小・藤橋小を間借り。三小建築中→今井小。新町小建築中→藤橋小。新町中建築中→藤橋小)</p>	<p>③通学でバスを使う場合、将来バス路線が持続経営されているか心配です。スクールバスなども視野に考える必要があるかと思っています。</p> <p>④合併は良いと思うが遠すぎる。小学生が毎日通学するのは厳しい。親の送迎が必要になり負担になると思う。一緒にするなら中間地に学校を作って欲しい。</p> <p>⑥既存に比べ、通学距離が増えて児童の負担が増す。中学校区に変化はないようなので、新たなデメリットはなさそう。</p> <p>⑦三小と三小の建築期間が連続し、小中両方の期間を仮校舎で過ごすことになる学年に負担が大きい。</p>		<p>①ある程度の児童数を見込めるので充実した教育が可能。</p> <p>③施設を分けることで、子どもたちは入学、卒業など節目を感じながら成長していくように思います。</p> <p>④現状と同じ感じなので良いと思う</p> <p>⑦小学校中学校の施設が分離されているので、校庭や体育館、プール等の共有施設の学年やクラス間の運営がしやすい。学校内の動線を考えやすい。</p>	<p>④建て替え時に生徒はどこで授業などをするのか等の課題がでると思う。</p> <p>⑥施設が隣接している分、進学による節目が希薄となり、人間関係が上手く行っていない場合は、そのまま引きずるデメリットを感じる。施設分離型を再考してみる価値もあるが、三小と三小の関係は既存と変わらない。</p> <p>⑦小中それぞれの施設となることでトータルでの建築費用は大きくなる。</p>	